

林田府政はなにを してきたか

<1>

ライシャワー氏の核もちこみ証言で国民の不安と怒りが大きく高まっているさなか、核積載可能な米軍艦が舞鶴港に入港しました。

わが議員団は、入港中止を要請せよと申し入れましたが、林田知事はこれを黙殺し入港を容認しました。また、六月府会の代表質問で舞鶴の核基地化に反対し、非核三原則の法制化を国に求めよと要求。これにたいしても、現実には府民の生命と財産がおびやかされているにもかかわらず「おびやかされる場合は立ち上る」などと答弁。非核三原則のなしくずしと舞鶴港の核基地化に協力する姿勢をしめし、府民の怒りをよんでいきます。

かつて蟻川民主府政が、日本海を友好と平和の海にしようとしてよびかけ、舞鶴港を対岸貿易と平和の港として整備につとめてきたこととくらべ、林田府政の姿勢は月とスッポンのちがいです。

また林田知事は、今年五月から

三カ月間、タイ国のカンボジア難民センターに府立医大の外科医、看護婦を派遣しました。このセンターが、カンボジアで三百万人以上の人々を虐殺した旧ポルポト軍

兵士の治療や休養、戦闘員の捕給基地であることは、衆知の事実。ここへの職員派遣は、明らかに戦争への加担です。しかも、「有事の際に従軍命令書一枚で医療関係者を徴用できる」有事立法、戦事立法法制化の先どりとして、極めて重大です。

自衛隊公認への一翼になう

林田知事の軍国主義推進の姿勢は、知事就任以来、一貫していま

す。舞鶴日立造船への自衛艦の発注要請にはじまり、自衛隊三十周年記念式典への祝辞、「京都府防衛協会」への顧問就任など、自衛隊公認への一翼を担ってきました。わが議員団が、住民を不安に陥れられた市街地での実戦訓練に抗議せよと追及したのに対し、「自衛隊は合法。知事が意見するすじあいではない」と居直ったのは、その典型でした。

また、今年二月の議会で、自民党議員の「天皇主催の園遊会を京都に誘致してはどうか」との提案

“軍国主義推進”の府政に

に「京都再興に時宜をえた提案であり、積極的に働きかけたい」とのべ、知事の前近代的感覚と反動的文化「再興」のねらいを露呈しました。

右翼とのつきあいの深さも林田知事の特徴です。右翼団体・日本民主同志会委員長の松本明重氏を「先生」と仰ぎ、あの右翼のドン笹川良一氏のひもつき資金を府立青少年海洋活動センターの建設にあて、活動の足がかりを与えようとしているのです。

この軍国主義推進府政となって

います。

申し入れ書

日米合同演習参加のアメリカ第七艦隊駆逐艦「リチャード・S・エドワーズ」が五月二十五日舞鶴に入港する予定であることが明らかにされている。

当該駆逐艦は核・非核両用魚雷アスロックを装備しており、ライシャワー、ラロック両証言によって実際に核兵器を積載していることは決定的である。

五月十七、十八両日にひきつづく合同演習参加の核装備米艦の入港は「非核三原則」を無視し、舞鶴を現実には核基地化するものであり、府民の安全のためにも、アジアと世界の平和と安全のためにも容認できないものである。加えて、これらの米艦が「はえなわ」切断によって、わが国漁民に多大の損害を与えたものであり、この点でも許すことのできないものである。

わが議員団は、以上の立場から、府民の平和と安全を守る責任を負うべき林田知事が、今次米艦の舞鶴入港には反対である旨、態度表明するとともに、実際に入港しないよう関係政府機関に働きかけることを強く申し入れるものである。

一九八一年五月二十二日

核軍艦の入港容認

